

地方扱集成

7係3
3347
2



門 7 係 3
第 3347
卷 2

地方扱集成後編卷之二

氏遺愛之記

目錄

序編之部

下総常陸下野盜賊徘徊之事

奥州筑房州海上異國船見之事

沖免郡化之事

太極河川之事

道中往來之事

檣竿銀具停止之事

三十歳余の男巡行之事

田叔之事 西条

酒造年之事

大坂川口渡舟石鏡之事

道中人馬先福之事

茶種人參之事

水戸借車見合之事

五心退治之事

接授勾當座頭之事

寺社終始書出之事

田叔之事

女午刑之事

日光寺社系人馬之事

宗門改帳完文以合集以紙并一宗一帳之事

新田岡後之事

道中借車之事

寺料百燈私帳引移之事

盲僧之事

誘座志瑞座之事

抱石友之事

川舟控平之事

支那の百姓所人の金銀借用無用之事

五貨附合之事

酒造禁止之事

草薨の根絶之事

市井下寺社之事

旅籠残之事

江戸町中飢渴の事

体束の酒造禁止の事

酒造三分一造の事

根絶の事

唐船扱荷物の事

陸奥常陸下野国の人少舟出入の事

身銀の事

地方扱集成

卷之二

元文元年正月十日

一 於度下總常陸下陸三ヶ国三河邊結部個々年々有
右三ヶ国村々組々老古廻一以海夫場屋三儀三
組々戸の斗三々共新石揃々る葉因之在也一百姓共
先々トキ一存るに捕々屋も一有々物吏同明之ホ
三儀地方中下付々儀兼々無々一以右百理千以是以片
心得違々之の存々有々亦又ハ小世信亦存々之の
也之有々ハ其老存々一之の也有々ハ其所

要道宿便之處にも住居を建て奉りて之也

元文四年未六月

一 當五月下旬より奥州四房列節津吉異勢船
おんりより陸地こりり押至津吉に有し各可
中流を以て迹去りて其分こりり一丈人為るるも
子若ら各其跡を以てゆり右に津吉有し一丈餘り先
此頃より中流を以て分津吉有し一丈餘り先
そとを以て有る

寛保二戌年

一 諸国寺社修復を助力勸化申免し寺社奉行
連官に勸化帳持年出料私殿寺社殿在所巡行
いふに各寺社に案内出令在村に勸化停止者
地所中流有し各勸化物殿中にも有し殿所
私に勸化申免し中流に地所心次者有る
公儀御免し上諸国巡行之事を奉り寺社に案内志
治者勸化に御免出料共中流に御免地所
兼て中流に御免

一 橋杭に於ては中流に御免寺社

箱之資負在箱之中より取らる具是より其具之
烟金之打は棒之突母皆五素田額重く其紙
徳川之何事と申す所の言はれはフランス
由ら右肺と云ふ事通はる所は當至は料之
以代官私取之願は地政は申す由ら

宝曆三年

一 當秋よりは料は二町より一町に減す候所 作付は右
万石以上は向ふは當秋は細く其分限高き万石
有候千石より一町五分は作付は万石以上は作付
同平は三年以來は右言はれは定所は申す由ら

右要細之條は申す定所は申す由ら

一 酒造年之儀は徳國其三元銀千石年より石數を造り候
定數三分二限り候所新造の印を禁止し名正徳三年
十月は福は其後酒造之儀は福は候に無し二付
今以右に定數は申す事は申す由ら其後元禄
十三年に定數は新造の儀は造り候は申す事は
但休酒屋之儀は是又酒造申す度分は其申す由ら
奉行所且は料之儀は代官私取之儀は地政は申す由ら
酒造之儀は福は申す事は申す由ら但酒造申す事は其數

不相分多共出船定不上下取合

宝曆四年

一 大坂西川口年々湊成諸船出入津之自由有之
世度当地并他五諸船又ハ渡海船
石濱之川水尾渡下船石濱湊出入之船并
諸船積込船一ノ荷物多少ニ依テ船
石濱湊一ノ船一ノ右之船於江戸湊被
其旨之好也

一 總

一 諸船川口ノ年々荷物積込ノ由海濱湊船仕又夫
沖ノ荷物積込ノ年々大坂湊ノ船ハ出入とも
荷物多少ニ依テ其船一ノ石濱湊一ノ
之ノ積込石濱湊ニ出也

一 荷物無一カラ船出入ノ其後其湊石濱湊
石濱湊ノ大坂湊船仕之船主ノ其ノ石濱
可免出也事。○附船仕湊一但船仕右同ノ事
○定た其積込船仕之借入者代ノ其ノ船仕
其積込船仕之借入者代ノ其ノ船仕
石濱湊船仕之借入者代ノ其ノ船仕
船仕之借入者代ノ其ノ船仕

請負のありきも荷物積の船夫石濱可也其由
事。武家の子船多も法荷物積の船夫石濱
可也出事。右に重く其心得の石濱に集りしため、
三仁年寄三人は廻船の寄り人年寄定まるとる
諸船出入の度、何方の船何日石濱に何荷物と
積何月何日本津川河臨川口出又其入津仕
船石濱何程先出也此又石濱年寄とも石濱
年寄の差を遠く候有りしゆ、急交可也其由
右に通大坂町奉行より三仁町中へ右船事も西国
中国北国御船持たる急交其候と存多敷也右に河川

口世に沖子大波著候事、以事去水尾若波、其廻り
早船の出入自由の事、其候得之令取知
大坂へ入津の廻船出入の事、無常石濱に急交其由
之兼國々船稼共、其知に右に其候也
右に石濱の料、其代官右船の者、右候其願、其地取より
右船に右津中津村候急交有之、面々、其船の

寶曆八年庚申二月

一 坂而道中は、其、人馬先船、其、儀、其、先、船、
無之、面々、其、有之、其、宿、其、其、人馬、其、其、其、其、
用、其、助、其、村、其、人、其、其、其、其、其、其、其、其、其、其、

助心村之居物儀以見古昔の以事共起而往來とも
一日二宿く人馬先觸てて出た、以事悉勤交習
若も人馬入用し御宿く先觸てて出た、白蟻自分并
家来た先觸字道中奉行てて出た
右之儀其の中一連し其旨て心得ん

一 道中往來し人馬先觸て儀ハ東海道日丸中要所
及中甲別府中在敷は水戸他倉迄往來し其
儀より其旨て其意に其後其心得中一連し其旨

十月

一 此度先觸て儀中其儀共及中一宿く先觸て

往來目く有し其内人馬多く出た有し
考觸て中用意し人馬助心村より南に其旨言し相
節人馬も多し有し其旨言し其旨言し其旨言し
之儀其旨言し其旨言し其旨言し其旨言し
此儀其旨言し其旨言し其旨言し其旨言し
其旨言し其旨言し其旨言し其旨言し
之儀其旨言し其旨言し其旨言し其旨言し
何方何方と申し其旨言し其旨言し其旨言し

宝曆十辰年

一 去回出兩年此料二あり其旨言し其旨言し其旨言し

種日本種之、松子素人之見、而も分明有之、
依之何卒、泥山に作り出、一末とて、そのまゝ、
而救て、而旨彼是、而世に存有、
生、
沙世語有、
公儀、
相、
如、
所々、
い事、

族も有、又、
右、
之、
此、
下、
亦、
有、
引、
廣、
右、

清国禁口 傳抄、世為く長崎、本居り、呂大經と
中との通東流、其、との元、同、去、胸、去、醫師、由
右、呂大經、中、の、廣、東、人、夫、六、列、侯、種、生、と、て、
人、参、三、回、二、去、之、當、旨、詳、二、中、の、某、亦、切、能、去、倍、と、も
亦、并、重、く、水、多、め、一、有、く、一、百、出、と、下、二、あり、て、詳、是、日
儀、之、有、く、一、百、出、と、一、六、平、去、人、種、去、醫、業、と、一、の、
二、年、后、と、一、川、金、也、流、也、同、根、一、事、九、不、及、合、資、老、處、而、師、
而、く、八、厘、く、四、救、二、思、百、の、五、枚、く、切、能、毒、亦、心、得、了、指、
下、上、後、の、

明和二年

一 今般於 日光山淨法舎中 水戸性暹師 白村去
日光庵中、加助中、何、由、也、
淨法舎中、去、見、合、也
中、家、中、一、法、東、有、一、板、先、在、中、
達、は、丁、も、三、月、より
四、月、中、去、板、去、の、百、有、心、得、了、達、は

二月

一 世度文字同位、の、掛、同、為、定、定、の、銀、紙、之、被
作、付、有、有、未、一、丁、銀、七、五、紙、
二、五、交、漏、方、請、為、方
無、帰、為、自、三、紙、の、

明和三四年

一 換授、句、書、其、外、産、民、官、令、
也、一、之、高、利、と、

備之也。事之是也。地之。よのし金子と記し。是
自分金子。し中。貸。し。備。之。任。務。備。し。る
筆。右。脚。し。任。務。の。委。也。

安永元辰年八月

一 関八州寺社領 伊米系地陸地。諸地不持。し。分
負數。右。乳。當。地。領。氏。有。し。分。去。領。氏。無。く
無。奉。寺。社。院。并。神。主。社。人。等。之。向。書。し。奉。行。不
此。代。官。領。地。以。之。向。書。出。向。し。分。和。年。伊。豆。系。方。
書。月。之。出。出。在。去。宣。年。五。月。有。領。進。し。分。出。出。分。委
右。書。月。一。區。之。之。程。委。分。有。し。分。依。し。在。又。関。八。州。

寺社并諸地不持。し。分。用。心。諸。地。柳。派。諸。地
又。去。前。之。不。持。し。分。當。時。元。上。至。或。ハ。諸。諸。地。之。如。夫
諸。地。之。負。數。不。得。指。委。去。記。し。一。国。郡。村。名
寺院ハ。山。号。神。社。人。之。奉。侍。し。社。号。伊。米。系。下。言
陸。地。之。其。分。ハ。以。戸。之。里。數。諸。地。不。持。し。之。の
名。前。年。月。又。去。存。用。心。領。地。分。領。指。委。し。之。の
名。前。元。上。至。分。去。元。上。出。領。地。之。代。官
右。系。年。月。日。前。之。不。持。奉。仕。如。初。燒。去。不。用。立
當。時。諸。地。之。分。年。月。等。之。細。之。其。乳。書。付。目
前。之。諸。地。不。持。し。分。寺。社。并。寺。社。領。ハ。前。之。分

少波以名書付當他三奉寺納民有し古院ハ其奉寺
納民并向寺奉行以代官領土地以りしある
書付は出し奉寺納民無し其年又ハ此主
社人等其其向寺奉寺納民以代官領土地以り
書付は出し向寺奉寺納民中上三三出
但組其配あり向寺之類は奉寺三三出
右之類は奉寺納民

八月

安永三年年一正月

一 當年年豐作りし以料不_レあ_レりし田租_レ作付

万石以上_レ面_レも收納年_レ四分限_レ言_レき万石_レ付
耘干儀_レ田至_レ并江戸廻_レ年_レ角_レ是_レ又_レ五分_レ年
在_レ減_レ以_レ後_レ了_レ後_レは_レ在_レ至_レ言_レき其心得_レは_レ委細_レに_レ備_レえ
以_レ事_レ定_レ在_レ付_レ上_レ言_レ水_レ合_レん

九月

一 當年年風水損等_レ場_レ和_レ七_レ有_レし其先_レ先_レ出_レ奉_レ年_レ有_レ
お_レ意_レは_レ其_レ中_レ依_レり_レ先_レ達_レ言_レ其_レ達_レは_レ並_レ沙_レ料_レ不_レあ_レわ_レく
小_レ田_レ数_レは_レ作_レ付_レ言_レ万_レ石_レ以上_レ面_レも_レ出_レ奉_レ年_レ有_レし
場_レ亦_レ之_レ收納_レ角_レ分_レ限_レ言_レき_レ万_レ石_レ付_レ耘_レ干_レ儀_レ以_レ
田_レ至_レは_レ耘_レ干_レ儀_レ是_レ江戸廻_レ年_レ角_レ是_レ又_レ五分_レ年_レ有_レし
其_レ心得_レは_レ委細_レに_レ備_レえ

惟是、女は右に遇て、相心は、高細に傳ふ事あり、
可なり、云々

安永四年

一 諸国、關前、女子、形、色、優、美、之、者、別、無、之、其、女、之、譽、
引、法、多、し、の、事、也、之、至、人、頭、女、配、し、法、又、是、所、由、也、
其、事、多、し、之、事、判、之、法、多、し、以、由、年、去、其、女、之、身、
分、子、相、他、之、事、も、自、之、親、親、縁、去、又、去、妻、或、は、
石、仕、親、類、之、事、也、其、女、之、所、分、引、法、は、よ、し、り、ハ、
法、文、子、之、出、類、も、有、之、然、る、に、其、女、之、實、之、
身、分、お、分、り、か、つ、何、也、も、其、女、之、所、分、引、法、は、若、者、

其、主人、頭、女、配、し、法、文、之、事、也、

但、他、國、之、女、江、戸、番、女、事、公、等、之、如、指、身、分、引、法、は、
之、の、事、也、其、女、配、し、法、文、之、事、也、
其、事、多、し、之、事、判、之、法、多、し、以、由、年、去、其、女、之、身、
分、子、相、他、之、事、も、自、之、親、親、縁、去、又、去、妻、或、は、
石、仕、親、類、之、事、也、其、女、之、所、分、引、法、は、よ、し、り、ハ、
法、文、子、之、出、類、も、有、之、然、る、に、其、女、之、實、之、
身、分、お、分、り、か、つ、何、也、も、其、女、之、所、分、引、法、は、若、者、

取、合、の、

一 素、買、日、光、所、社、名、也、也、是、親、関、東、村、之、人、馬、
差、出、之、事、也、人、馬、自、數、之、傷、去、事、多、し、石、之、身、
人、是、七、人、馬、七、丈、様、之、事、也、其、心、得、之、法、は、
馬、次、之、傷、去、事、多、し、石、之、身、
人、是、七、人、馬、七、丈、様、之、事、也、其、心、得、之、法、は、
馬、次、之、傷、去、事、多、し、石、之、身、

竊馬女馬並馬士人足等之儀も 年十五以下六十
年之よのハ皆く不可出法負い多しハ傷共
い多しハ多岐ハあり人足並後ハ場亦日限等ニ傷共
進之テ福ハ百不云共守ハ世福妻 洋見く上
一村分各至有くハハも 一村走人ハ正形之儀ハ
別帳清書一村各至組廻何人有くハ先書載正形
ハ年日限并限ハハ順能移之 年並ハ年一急之
五廻一守村ハ穠信示之因ハ正形並之よの也
安永七年三月
常陸若菜島大橋分村
因国多岐教指セケ村

一 日丸 津社本中津若子中 川筋水船子より船改之儀
大名ハ取去之共ハ為与居ハ正形並至下ハ此免
子形之引合セ正改ハ事
一 子負繩付並武具之數不共通ハ
一 出家女并前髪有く者ハ並形方ハ子形並並通ハ
ハ事
一 右ノ通 万石以上ハ正形並ハ心得ハ有万石以下ハ
老中並形之儀ハ並ハ正形並ハ
一 表四角十二日敷箇ノ米ハ正形十三百 正形並并形ハ事
正形ハ格別 借在ハハ面ハ借廻リ 因勢ノ外ハ

一切 津成屋の御、往來に事ある其旨に上り申付
以事

但急病に醫者等より候人留り候事、
以上呼寄り申上。此後人より申上事
津成屋の御、往來に事ある其旨に上り申付
眼に上り申上。此後人留り候事、
一の尾公の往來に事ある其旨に上り申付
人留り申上。此後人留り候事、

一 菱四月日先 津社系右道中御口月報の上り
同嶺日迄津用系御口月報の上り

此後心付候

安永五申年八月

一 日先 津社系右道中御口月報の上り
高石石付銀八両五分有候事、此後
船下村に早蓮寺あり、本村に白蓮寺あり、
持業之御、右に商人馬也、扶持業に石付、
以り此書に御口月報、外に商人馬也、
下り此の御書に上り、今津用系御口月報、
一の尾公の御書に上り、

常陸国鹿嶋郡
大船津村御口

教ヶ村

安永六酉年正月

一 諸國津料和紙宗門改帳大概寛文以後より
 年々々帳面寺社奉行より在集申出若し
 一 津料下り分去其取々々之代官より在集申出奉行
 之申出申出。江戸所方寺社奉行より
 在集可申出。○壹国奉行有之町方公金電
 奉引占申出。○一万石以上并出役人交代申出

諸ヶより申出。○既其紀有之届ハ既之
 在集申出能申出

但伊賀者同心等々諸ヶ其外中給取之申出も
 急行下り人別帳去既其紀より申出
 在集申出迄申出。○寺社既之申出其等
 申出在集申出御大其下り之代官既其地既
 可申出。○但前々諸ヶ其寺社奉行ハ
 在集申出分去寺社奉行、並其申出申出
 申出

右通申出得帳面集申出申出
 申出

母教之傳書出... 物産録中... 正長出
追言各國次第帳面も是出下事也

三月

一 諸国宗少将之儀當年迄去流宗一帳之古徳之出
はしりも末年よりハ一宗限り一冊之八年一古年号
其外徳方新越之儀之無し是迄之至古遠至之根
古徳之元也右之録之料之代官私儀之願主
地外古徳之代官私儀之代官之入意之古徳
之承合之儀有し之り是末承之也

九月

一 国々ニ在りて新田細流之儀一帳一園之因之録
有る場之古徳 公儀新田之儀 作付之方石以下
急行而之分七因之事 ○ 村一録之無し之儀之也
一 録之古徳 一 角之有し之儀之也 他之因之事 ○ 且
村之地先ハ五分中一附州外之古徳之場之
西料之方論他之儀之先少し之儀之入之文之有し之儀
私儀之古徳之古徳 公儀新田之儀
作付之古徳新田細之儀之古徳保年中之儀之古徳
有し之儀之古徳又右之儀之古徳遠之儀之古徳之儀之古徳

一 去年年并並使下並月此料 予も田料江

作付の百萬石以上の御も分限言壹萬石付千儀元
田料と後以程中達以如迄之年並田場 川上以付
此料不田料之儀も若若百萬石以上之而田
料之儀も其若撫子此等之年中以迄之可致也

安永九子年

一 御用之付儀事之向之末之家来雇之其の亦好邊
無儀之予等一人是等語亦其出之也以取人馬
お借又ハ折之口端ホも有之其の御算儀之儀
先給之儀寄之重立の表来之平瀬場 至是給

之外人馬入用之其共馬何人何人ト其徳在
家来平形之書付之其給の百萬石瀬川合人子其出
平瀬之川沿之儀其法在縦取来之同之申付
ゆも平瀬之儀一人馬去之其出之其相在事其
何之上宿之申付儀其書之其申付之儀

九月

一 奥羽羽列野列其外園東第此料取村之百姓
家内不達欠落の年其の多ク有之其如右之内其
松原より其書之申付之其相之儀も有之 園新之其書
其書之利欲之引其追之欠落の年 其相

引接以鏡凡世上有之其右胸之上有之也
其村之西至子之長村之北村之北村之北
村役人之送狀也世之百姓之西至子之長村之北村之北
其昔古心得語之役人尤く子之中也右胸之儀
無之根之原也其定取方之傳也

九月

一 中国西國の神其不是也其紀之盲僧者青蓮院宮
少多紀之其如身或象陸長之辨盲人夫盲僧之
其如右宮其紀之辨又夫針信等其辨之律線

上篇一 權授之其紀之其如身其如身其如身其如身
盲僧之其如身其如身其如身其如身其如身其如身
町人之辨盲人其辨三味線織信等其如身
後世の事一 親之其身其如在也其如在也其如在也
其抱主人之身其又夫主人之在身其如他其如
不致分其安永五年其如身其如在也其如在也其如在也

安永九年 其如身其如在也其如在也其如在也
任亦其如身其如在也其如在也其如在也其如在也
其如身其如在也其如在也其如在也其如在也其如在也

の大板に在りしは道筋違ひの由に白梅大板の爲に
此賣りて在りしは且大板の船いりしは
船方より同所奉行の在りしは
代銀の儀是は返問屋とも
此戻の船一様は問屋に
賣りては儀は夫々
望ししは中費とも
此戻の船一様は問屋に
賣りては儀は夫々
望ししは中費とも

一 山元為主の在りしは
此戻の船一様は問屋に
賣りては儀は夫々
望ししは中費とも

一 殊賣捌の儀は在りしは
此戻の船一様は問屋に
賣りては儀は夫々
望ししは中費とも

但問屋の中費の
此戻の船一様は問屋に
賣りては儀は夫々
望ししは中費とも

一 殊賣口跡の儀は
此戻の船一様は問屋に
賣りては儀は夫々
望ししは中費とも

一 但問屋の中費の
此戻の船一様は問屋に
賣りては儀は夫々
望ししは中費とも

有来田尾是木間教梓教三人役人足為務也
以教尾及及と尸傷者正持し而之は尾及及之
二十連は是迄く無百姓代言内く正持し、その
有し、持是村役人尤く是為難也

但是正持主事知、抱尾及及是正く無役人果
是、知、及及、正、持、後、亦、是、正、く、無、也

一 国東第川、諸船之儀、伊府内川筋、幸、込
比、分、去、前、く、川、船、流、亦、は、船、極、下、流、通、船、流、東、流、
由、來、心、好、遠、い、事、極、下、無、く、船、亦、困、り、の、も、有、也
亦、亦、困、り、川、筋、亦、流、表、分、伊、府、内、川、幸、込、分、大

想、船、教、主、改、は、船、中、極、下、伊、府、内、川、結、く、川、々、夫
、度、中、一、室、八、妙、兼、伊、豆、流、河、之、角、之、土、地、限、川、筋
、船、教、之、事、も、五、洞、の、苦、と、為、海、上、通、船、亦、川、船、其、因、
一、口、極、下、船、業、亦、亦、之、事、其、亦、之、事、船、教、主、津、之、極、
五、洞、亦、主、名、亦、于、亦、極、下、船、之、拍、り、の、者、も、亦、亦、亦、等
一、村、限、是、亦、亦、是、追、言、改、之、語、は、亦、い、多、事、を、極、く、い、あ、く
極、下、之、後、船、若、心、内、遠、言、極、下、極、下、極、下、極、下、極、下、極、下、
之、事、別、外、く、極、下、之、事、亦、極、下、亦、極、下、亦、極、下、亦、極、下、
川、口、亦、入、亦、亦、亦、亦、川、筋、亦、亦、亦、亦、亦、亦、亦、亦、亦、
亦、亦、亦、亦、亦、亦、亦、亦、亦、亦、亦、亦、亦、亦、亦、亦、亦、亦、

為の江津右勝の信用金共不中掛は私帳に家共一
千官毫は其外に返す氣は面々台格感忘用金
了付、借是又其有、百ある、程又忘却其
家共去勿簿組と配と、面々ハ組と配と、海子
千官毫迄前文に、百姓所人も其心均着公均違
金子潤、借、掛、不、返、出、得、

三月

一 諸国沙料私帳宗門改帳大概宛文、此分、以、算
年、性、面、寺、社、在、以、三、五、集、少、の、苦、ん、佛、精、而、食、ハ
代、寄、の、九、集、少、の、苦、ん、三、五、集、少、の、苦、ん、

- 一 江戸町方支所奉行、三、五、集、少、の、苦、ん、
- 一 查国在行有、町方支所、其、而、一、年、所、分、之、九、也、
- 一 万石以上兼以役人交代寄合未去、移、之、分、之、九、也、
- 一 既、其、配、有、一、面、之、夫、民、之、三、五、集、少、の、苦、ん、既、其、配、之、以、
之、九、也、
- 一 但、与、力、伊、賀、之、の、同、心、之、給、地、之、小、給、之、知、所、一、也、之、
人、引、情、去、既、其、配、之、三、五、集、少、の、苦、ん、改、其、集、少、の、苦、ん、可、成、又、
之、所、一、也、改、其、配、之、三、五、集、少、の、苦、ん、
- 一 寺、社、以、之、儀、共、其、与、社、三、五、集、少、の、苦、ん、成、又、之、三、五、集、少、の、苦、ん、
以、代、寄、の、九、集、少、の、苦、ん、之、九、也、

但前々該領事書に寺社奉行の旨に
夫寺社奉行の旨に

右之通り心付帳集決書一々年毎々年号并冊数
箇條書い申 出来決書 牧野御申書迄之旨に
追言及因決書性細小之旨に申上之旨に
申年去給の旨に今以之旨に申上之旨に
相持書一々年毎々年号并冊数
並前々向し松又世に去調一統之旨に

七月

一 迎年金銀融通之旨に該家迄有之旨に

以度金銀融通之旨に申上之旨に 作付 該國
寺社山伏宮の旨に尼の旨に申上之旨に
本寺本山并重立の旨に社家の旨に
該國迄之旨に申上之旨に 金銀融通之旨に
申上之旨に 出銀之旨に本寺本山并重立の旨に
社家の旨に 申上之旨に

一 該國御料在取百姓持分百石并御書迄之旨に
但大抵表之旨に申上之旨に

申除之積

右同所所人

新造之願王地民が是を以て酒造二を造て是を以て味
本石造し積りて一竹ん

海軍心月院の事

家之 文 市

有しとの溪山藪等、生ひ草トコロ群コロ之若しと振す
粉製しち食物を糊コトに第一割麦しくしく製し
多きは年暮ると文七丈食を成を毒世しく思ふ名
尸之は名以味しく上在方助ケるも亦如く亦何れも在
山草群、同一種類、幸場所免れ候へ、亦右坂
并し少くも亦對とん出店に於て亦右

製言方の習法度、そのハ名寄くくしく出店に尸少
池水、柳、く、禮物、之及教者、其若し、其製法
習法、在方、之、手製、之、一、丈、食、粉、糊、等、二
用い、し、海、夫、白、綿、之、備、ひ、十、も、亦、賞、ひ、第、一、度
存、ひ、と、の、ハ、名、寄、く、一、市、出、店、に、在、る、也、亦、賣、夫
不、仕、は、紙、之、段、也
筆者長流曰右草群、若し、若し、と、其、法、夫
補、後、名、寄、二、葉、一、く、亦、一、也、其、方、亦、説、之、也、

天明七年二月

一 覚 御朱系 及 叢 寺 社 之 輩 寺 社 飲 之 也 矣

よしく、は、境、内、中、に、雜、居、御、朱、系、亦、持、せ、り、也、

た、は、御、朱、系、亦、持、せ、り、也、御、朱、系、亦、持、せ、り、也、寺、社

既、御朱印未定、其後、當七月、八月、九月、十月、
江戸表、持来、第一、杉平、和泉、与、堀田、在、持、与、方、
在、達、以、後、之、在、約、以、以、之、

五月

一、近年、富、之、困、窮、之、上、世、良、年、穀、引、之、高、出、在、
年、陣、旅、籠、米、宿、方、五、山、之、厚、穀、備、之、以、話、取、其、不、
往、来、之、因、之、其、前、之、旅、名、之、旅、籠、米、宿、并、旅、
以、之、山、米、也、有、之、話、之、中、有、左、以、去、自、物、之、往、
之、其、方、也、之、其、宿、事、之、以、年、穀、法、其、之、其、宿、
之、其、宿、并、之、不、其、宿、也、其、宿、之、其、宿、其、宿、其、宿、

相辨、旅、以、之、後、也

六月

一、其、良、年、穀、引、之、高、出、在、
新、儀、之、法、之、其、宿、方、五、山、之、厚、穀、備、之、以、話、取、其、不、
之、其、宿、并、之、不、其、宿、也、其、宿、之、其、宿、其、宿、其、宿、
以、費、上、之、其、宿、方、五、山、之、厚、穀、備、之、以、話、取、其、不、
其、宿、并、之、不、其、宿、也、其、宿、之、其、宿、其、宿、其、宿、
私、宿、其、宿、其、宿、其、宿、其、宿、其、宿、其、宿、其、宿、

一、清、和、寺、社、出、度、之、儀、年、穀、二、之、其、宿、
其、宿、其、宿、其、宿、其、宿、其、宿、其、宿、其、宿、

一 列強の通酒造り
分酒造り
仕入支那
領地
當年
減少
心得
其名

一 德國酒造り
下
造
酒造り
之

下
造
酒造り
之
急
私

十月

一 近年打續米並は言並に下くこの大穀類
 およこの穀に付 諸國造米の酒造米なるに因りて
 節々体操を分造酒並用之に依りて去年中獨り
 當春以米別り米穀拵應に付 追及沙汰
 のまてハ酒造米なるに因りて三分一造りて
 一已に利便に拘り少くも諸造亦い分り或ハ
 賣買節々此のあり有るに夫急交際中付に付
 株造酒共其以後もても新米の旨に付遠
 無し振込代官の地主地民に付 振込に付

天明八甲年二月

一 近年米穀之賣酒既造米増造ありて
 有るにハ一月米並は中寄新米ありて
 下くこのあり有るに造りて名多穀類
 の穀有るに付 追及に依りて 振込に付
 米穀之賣米酒既造米増造に依りて
 在るに付 此のあり有るに依りて
 節々此のあり有るに依りて 振込に付
 其後、中寄新米に合寄集振給に依りて
 後輩に依りて 振込に付

江作付の石を逐下くは海手中に空釜心得遠く
可致事

一 賣米酒隠造樽造共年々其の盛衰以年々波の
況は海の上より程厚く其れ益儀無し程に波の
万一下に心持遠くお集り糧藉く始末於有る
人数亦小勢の内巨捕千石時匠三志の打控も
亦若くは少料亦兼小強亦未陳屋先人数少く
分相和己年 右約の盛衰大なる人数亦
少振の中 幸ひ勿論右人数の盛衰中亦ありし時自
亦移るに益く人数亦小勢の内巨捕千石に差

手は解りし一切控この波は是迄在脚の盛衰有る
穏便に後を急ぐ 彼は致達席 お集りしとの先
多勢亦お集り下く及親儀は小勢の内巨捕又夫
打控も亦 早末五法の内の御く 此等之儀も
此後亦も三月の 此後多振も亦 徒業多勢亦
此の五振石の屋其亦其此代長願主地及不念
此節も亦亦少法に在る通て 此亦約は万石以上
右に准五中の中 首て 此亦連也

七月

一 先達酒造石を減少し 亦亦約は在改方之儀

列代之重古心得法料夫也代官私飲去能至
地既古時之役人亦如——以年古改之故之故也
私飲之分吟味亦所應之故亦如之——
心得九緯未中談其上不行之應有——
重古味中——江戸表上——五石以上之
知行所役人少以味所應之——其故
件之改亦能古也其定在古之——
無之從中酒造以味亦所應之——
鐵度之在改——
公儀役人亦所應之——
一石以上之為重古其旨之存也

一 諸國酒造之儀是近遠東之石言二分之一酒造
之故古亦能之在改方區之——
其之儀之改方轉之——
是近年之遠東之酒造亦言其此酒三分一造
以味所應之故之在是是遠東之石言二分之一之
石數は廻込の桶兼法及具も之儀は振下打
酒造人之重古改之儀は振下打と同者といふ
古改之儀は亦亦之桶兼法及具も之儀は振下打
列代亦打村役人之儀に至る之儀は通古心得
隱儀亦紛更儀也之儀は急而之改也

世に振波すし各歳重なり作ゆ、其書、
下は本納ひ

一 地度長崎表を以て用當り、
其止り其上不正に候、
正物立捌ハ神、
下段に且振、
右段に利、
中國有困、
其書、

貫造、
其書、
其書、
其書、
其書、
其書、
其書、
其書、
其書、

不實なるものをも心付と爲め子孫を討つ事
ふかひてハ新種と申す一 一 是事一 石末ニ在り
いよのハ炭爰科一 一 付り申すの也

申立月

一 陸奥常陸下野国村々之儀出料私殿共凶事
困窮ニありし列々去而年凶地以迄去人数も
格別ニ減耕能も所届無し其由平老人少
より之事ニ由り右三ヶ国之内人数不足
子孫ノ蕃地も有し場所ノ單年事公程あり
吾公抽免事公ニ出るも其村人数不足も一
耕能ノ降りも亦減分去沙料一 夫忠代官私殿ハ
願主地民ト申願以味一 一 取届何国何村
誰儀其公由候者免公由一 一 届状後在届由
江戸人者ト持来一 一 人者ト所持候
出候者自届候一 一 業又所持候
之租之返ハ沙料私殿共在公由一 一 人数一々
限至何国何村誰儀其公由一 一 出届者
此之件届状申候者其由候一 一 申す
名前大ニ丸調取去一 一 其由候
地民ハ此事定在候ト一 一 申す

一 陸奥常陸下野国村々之儀出料私殿共凶事
困窮ニありし列々去而年凶地以迄去人数も
格別ニ減耕能も所届無し其由平老人少
より之事ニ由り右三ヶ国之内人数不足
子孫ノ蕃地も有し場所ノ單年事公程あり
吾公抽免事公ニ出るも其村人数不足も一
耕能ノ降りも亦減分去沙料一 夫忠代官私殿ハ
願主地民ト申願以味一 一 取届何国何村
誰儀其公由候者免公由一 一 届状後在届由
江戸人者ト持来一 一 人者ト所持候
出候者自届候一 一 業又所持候
之租之返ハ沙料私殿共在公由一 一 人数一々
限至何国何村誰儀其公由一 一 出届者
此之件届状申候者其由候一 一 申す
名前大ニ丸調取去一 一 其由候
地民ハ此事定在候ト一 一 申す

一 河料取村に内人数少き所あり是れ地味より
村に他五に出奉公いふ事いふ所の六年季惟く是れ
河村吉波並受新三農業新成よの八紀
よ上西子者より預且程取よのそ是ま
其村に二五名並右に内にも其村に害に五名成
よの八河村に候村に百五名並右紀よ上河村
右紀に種よの右紀村に五名右紀に取河村
の波度存り分夫得与吟味よ上河料八河代官
私取支取地取に取出の右に通考陸下陸奥
河料私取よの五名並右に河村に五名中流名

河料取に河村

一 陸奥常陸下野国之内に夫且未格別人数少減
に降り居地七有し以右以事も夫在に三國尤人数
少し村方八容易に奉公に不出若くは右國に内
格別人少し事無し奉公に取らるも耕作に陸奥も
其取分夫河料支取代官私取支領主地領に
右領以傳し上河原流州右流州右流州支河原
人高に持来り山積り右其村に一人若より
所存行に右河原志是近考地味に取らるよの
陸奥常陸下野國村に八人数多し事右に右國に

容易なる公稼之不出連なる人熟少之考
無し以白銀是等之備之中一五共以好考公人
給金未去借之候有し二ありてハ急重之至以候
右二拍ノ控金等亦借之候其旨致方交り候
江戸所中ハ古物ノ有る所有行ハ甚重
向ノ口ニ古物候

一 近年金銀少之位ノ考測方有ありて是也
ト言進之到り世上一統冠儀ノ事ニ依り地
淨用古銀ノ家ノ上細令ノ内少事ノ歩判ノ少
出

出銀上 作付下銀出之在り沙是當沙入用トモ
此取如是又當年分取候沙是出銀上江戶表
下銀出候ニ古物ノ内トモ是也ト書拂ニ古物
若ハ以事沙備ノ内下銀ノ分夫多くト書拂
ト是向沙備判ト沙備ニト是取如名ト 作付
此事古沙備是万貫文年ハ出之 作付分
當年は月分七分は出之と減しトモ 於又
今度更ニ出立見止り進出トモト出入判トモ
加ハレ一統御救ト書ハ 作付沙備意者下
一已ノ利徳を沙備ノ旨ト齧齧ハナク是也

勿論其來判其論其去永代其用其音被
作出其心得遠波其音

地方報集版后篇卷之二終

